

石薬師^{いしやくし}

〔同村安楽寿院の東門の北にあり、弘法大師の作〕

亀井薬師^{かめゐやくし}

〔同村常楽寺にあり、鳥羽法皇の御念仏にして、慈覚大師の作なり〕

田中天王社^{たなかのてんわう}

〔下鳥羽のひがし森の内にあり、祭神牛頭天皇、下鳥羽横大路等の生土神とす、例祭は九月十日、神

輿一基あり〕

久我囃^{こなはて}

〔此道は上鳥羽の南の端西側より入つて、塔森^{たふのもり}を経て桂川の下流久我の渡口を越、上久我^{かみこが}の里を通りて山崎

にいたる、此中間眇々たる野径なれば囃といふ。むかし大内裏の御時、西国より王城に至る街道にして其名高し。太平記に云久我囃合戦の地是なり〕

久我神社^{こながの}

〔上久我^{こなが}にあり、菱妻明神^{ひつつま}と号す、土人生土神とす。例祭四月巳日、三代実録曰、貞観八年八月十四日丙

戌、山城国正六位上興我^{こが}万代^{がよろづよつぎ}継神^{のかみ}に従五位下を授くと。云々〕

久我杜^{こながのもり}

〔当社の森をいふ〕

六帖

木々にはふ蔦紅葉せり久我の森淀の渡りや時雨しつらん

光

俊

同
いとはやも鳴つる鴈が久我の杜木にはふ蔦も紅葉あへぬか
大伴郎女

八幡宮 はちまんぐう
〔右の社のひがしにあり〕御所屋敷〔久我はいにしへより公家の所領なり、其別業ありし旧地の字なり〕

本清寺 ほんせいじ
〔同村民居の中にあり、法華宗にして、開基は真滴法師。此里の民家みなく経宗なり〕

鴨川 かもがは
〔村の名とす、久我の南にあり。此所民居のひがしは桂川の下流にして一面の河原なり、布を曝を産業とす。

下鳥羽より西へ舟わたしあり〕

横大路渡口 よこおほちのわたし
〔横大路の町の中にあり〕樋爪渡口 ひづめのわたし
〔横大路の西南にあり、此所より淀水垂に至る〕

愛宕社 あたごのやしろ
〔富森にあり、いにしへは此所に森あり、今なし〕赤井河原 あかあかはら
〔いにしへは富森の北より東にいたり一面の河

原なり、桂川の下流に橋あり、赤井橋といふ、今なし〕

淀^{よど}〔京師よりの南の方三里にあり。顕住密勘に云く、淀はよどみをいふ、水の流もやらでとゞこほりぬるくとまれる

なり、それをば淀といふ、河淀ともよめり。此淀川といふも、桂川、鴨川、宇治川、木津川等のをちあひて深ければよどみぬるくながる、なり。云々〕

新後拾　のぼりえぬ淀の桴の継手縄この世ばかりをひく人もかな　前内大臣実

風　雅　みな人を渡さんと思ふとも綱の長くもがなや淀の川舟　正三位隆教

新　千　五月雨に頼む綱でも朽はて、波にひかる、淀の河船　藤原隆信朝臣

淀城^{よどのじやう}〔初は岩成主税助が築所なり。其後秀吉公の御簾中此所に住給ふて淀殿^{よどの}と号す、茶亭淀川の汀にありて美景なり〕

水垂^{みづたれ}〔鴨川桂川等の落合をいふ、南北に亘て人家あり。南は山崎^{やまざき}、摂津国路に続く、北は樋爪^{ひづめ}、赤井^{あかゐ}、菱川^{ひしかは}につゞきて横大路の渉し場に出る〕

阿弥陀寺^{あみだ}

〔水垂^{みづたれ}にあり。浄土宗にして、本尊阿弥陀仏、立像三尺五寸許り。伝云、いにしへ淀の弥陀次郎、此河の

水底より網を以て引揚し尊像なり、委は前編五箇庄西方寺に見へたり。当寺いにしへは今の地より北西にありて水輪寺といふ、今宗の中興は観空法師^{くわんくう}なり〕

弥陀次郎宅^{みだ} 〔城のひがし家中町^{かちゆうまち}の地なり、此所に住て漁をなす〕

淀渡^{よどのわたり}

〔秀吉公の御時、大橋、小橋、孫橋を架す。いにしへは一流の大河にして舟渡しなり、大渡ともいふ。前編に

見へたり〕

清少納言枕草紙云

卯月の晦日に長谷寺にまうずとて淀の渡りといふものをせしかば、舟に車をかきすへて行に、し

やうぶまこもなどすゑみちかく見えしをとらせたれば、いとながゝりけるこもつみたる舟のある岸こそいみじうを

かしかりしが、たかせの淀にはこれを読けるなんめりとみえし。〔下略〕